

□ まちの「つながり」プロジェクト (地域コミュニティとソーシャル・インクルージョンによるアプローチ)

高齢の戸建居住の世帯が多く、地域コミュニティ及び連携意識の高いエリアに着目。空き家の「予防」という観点から、大学・地域住民・社会福祉協議会などと連携し、住民がその地域に愛着を持って長く住み続けるための空き家・空きスペースの利活用に関する啓発活動を通じ、ソーシャル・インクルージョン（社会の構成員として包み支えあう）の観点による有効な拠点づくり、利活用の提案による「空き家をリソースにしたまちづくり」のプラットフォーム構築を目指す。

■ 概要

区市町村名	調布市
まちづくりプロデューサー	高橋大輔氏（共立女子大学教授） 菅原大輔氏（建築家）
行政の関わり	調布市がまちづくりプロデューサーを任命。専門家による企画の連携支援を通じ、地域住民との対話による協働事業を推進。
連携先	調布市社会福祉協議会、地区協議会、地域の居場所を考える会など。
対象エリア	富士見町エリア

■ 本年度の取組内容

・空き家運営時事業者の選定

本事業の対象地域となる富士見町内において、地域の居場所となる拠点空間が見つかったことから、そこを運営する事業者選定のため、企画提案競技を行う。

・地域拠点のオープンと運営方法の実装と自走

プロポーザル審査形式による事業者選定を行い、2事業者を選定した。6月1日に「富士見BASE」と名付けられたその場所において、近隣住民だけでなく、この活動に賛同してくれる方々のサポートもあり年度末までの半年で計4回のイベントを大盛況のうちに終えることができた。ここで構築・実装・自走した運用方法を新しい拠点でも適用する。

■ 本年度の成果

・地域拠点運用事業者の選定

昨年度末に確保できた空き家を地域拠点として運用するにあたり、事業者をプロポーザル審査形式で選定することとした。新規性や持続性、地域活動との連携可能性、次のフェーズへのビジョンに着目し公開審査を行い、2事業者を選定した。

・地域拠点となる空き家コンテンツの実装と自走

7月10日に開催した地域拠点のオープニングイベントでは非常にクオリティの高い内容で開催することができ、これをきっかけに近隣住民のみならず、遠方であっても事業者との会話を楽しむ、イベントに参加するといったファン層が着実に増えた。イベントも回を重ねる毎にコンテンツが充実し、実装と自走が実現した。年度末まで計4回のイベントと市・まちづくりプロデューサー・事業者による事業の進捗報告会を併せて行った。

・新たな場所でのスタート

昨年度と同様に2022年度の活動記録をまとめた「空き家とまちのつながり」を発行した。オーナーの意向により、年度末でこの拠点は閉じるようになったが、新たな拠点が見つかり、事業者たちが継続して活動を行うこととなった。



2022年度
空き家とまちのつながり▲